

CRA11

## 孤立性左室緻密化障害に合併した心房細動に対し肺静脈隔離+左房後壁隔離術が奏功した一例

1) 池田病院 循環器内科, 2) 福岡山王病院 ハートリズムセンター

○安田 幸一<sup>1)</sup>, 古賀 敬史<sup>1)</sup>, 東福 勝徳<sup>1)</sup>, 池田 大輔<sup>1)</sup>, 遠山 英子<sup>2)</sup>, 熊谷 浩一郎<sup>2)</sup>

69歳女性。慢性心房細動(AF)に対して投薬加療を受けていた。201X年8月, 呼吸苦を主訴に救急搬送。来院時は149回/分のAFでNT-proBNP 11245 pg/mlであった。エコーではEF 17%で緻密化障害の合併を認めた。薬物療法で心不全はcontrolされ, EF 33%まで改善したがAFとNYHA IIの症状は遷延した。MRIでは遅延造影もなかった事から, 10月にアブレーション治療を実施した。術後は洞調律が維持され, EF 69%まで上昇し緻密化障害部位の壁運動も改善した。NT-proBNP は298 pg/mlまで低下し, NYHA Iとなった。翌年6月にAFが再発し, 再度アブレーション治療を実施し, その後は洞調律を維持した。左室緻密化障害に対する特異的治療は無いが, 今回我々は合併したAFが心不全増悪因子と考えアブレーション治療を行い心機能とADLが改善した症例を経験し報告する。